

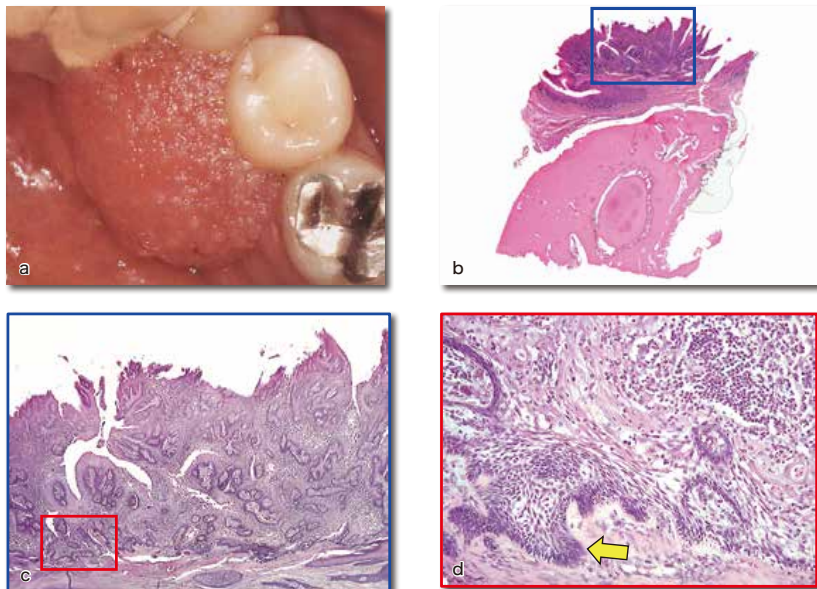


図 4-4 エナメル上皮腫，骨外性/周辺型

a: 下顎小白歯舌側歯肉に顆粒状腫瘍がみられる。 b: 歯肉上皮が外向性増殖を示し（青枠）。骨の破壊はみられない。
c: 乳頭腫様の増殖パターンがみられる（赤枠）。 d: 上皮基底層部に好塩基性核を伴う上皮増殖部分がみられ、エナメル器や歯提に類似する（赤枠内矢印）。

組織学的所見

- ・粘膜表面は顆粒状あるいは乳頭状であることが多い。
- ・エックス線所見では、骨の破壊・吸収は通常認められない。
- ・歯肉上皮が乳頭状増殖を示すこともある（図 4-4-b, c）。
- ・通常のエナメル上皮腫と同様の病理像を示す。
- ・多くが歯肉上皮基底層から生じると考えられる（図 4-4-d）。

④ 転移性エナメル上皮腫 metastasizing ameloblastoma

- ・良性の組織所見を呈するにもかかわらず遠隔転移をきたす、きわめてまれなエナメル上皮腫である。
- ・転移巣の約 7 割は肺あるいは胸膜で、次いでリンパ節と骨の順である。
- ・エナメル上皮癌とは区別される。

2 石灰化上皮性歯源性腫瘍 calcifying epithelial odontogenic tumour

- ・アミロイド様物質の形成とその石灰化を特徴とする腫瘍で、Pindborg 腫瘍とも

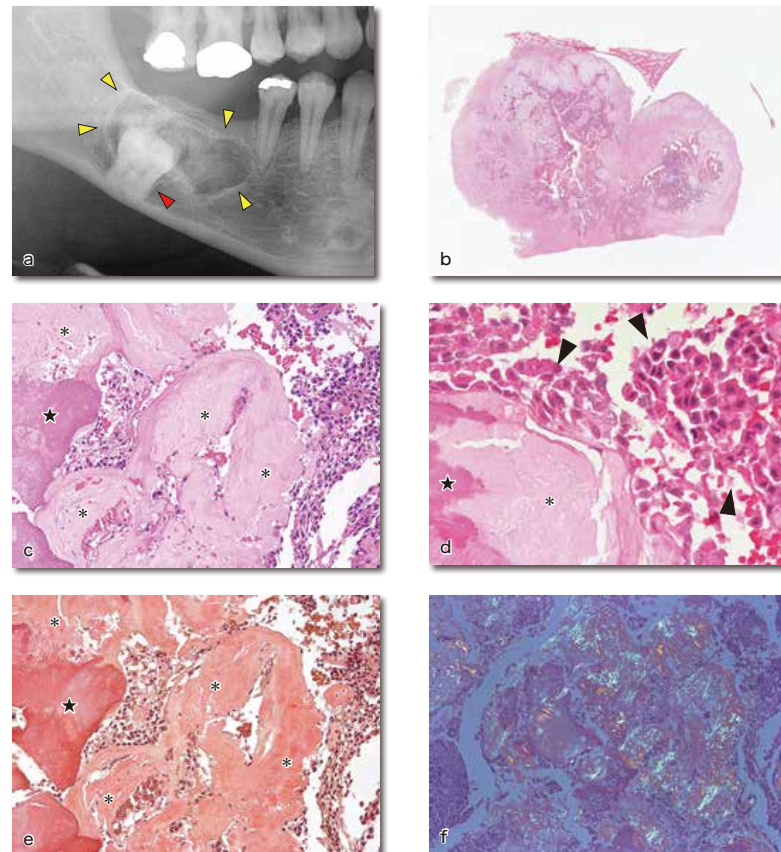


図 4-5 石灰化上皮性歯源性腫瘍

a: 下顎大白歯部の顎骨内に、内部に種々の不透過性部分を伴った単房性透過性病変がみられる（黄▲）。その下部には埋伏大白歯がみられる（赤▲）。 b: 境界明瞭な腫瘍性病変で比較的に厚い線維性結合組織の間質を伴う。 c: アミロイド様物質（*）とその石灰化（★）がみられる。 d: 腫瘍細胞は多角形の上皮細胞で、核の大小異なるなど異型を伴い、敷石状に増殖する（▲）。 e: アミロイド様物質（*）は、コンゴールレッド染色陽性である。 f: アミロイド様物質は、偏光顕微鏡で黄色から緑色調に輝いてみえる。

臨床所見

- ・局所侵襲性で再発傾向がある。
- ・下顎臼歯部、次いで上顎小白歯部の顎骨内に好発する。
- ・画像所見では、単房性エックス線透過像の中に不透過物（石灰化物）の散在、埋伏歯や未萌出歯を認める（図 4-5-a）。